



日韓併合 100 年

NO.49 でも触れましたが、今年は1910年の日韓併合から100年。併合条約の調印された8月22日を中心に様々な報道やイベントが行われました。

併合条約は第一条に 韓国皇帝陛下八韓国全部二関スル一切ノ統治権ヲ完全且永久ニ日本国皇帝陛下ニ譲与ス とのべ、韓国の意思で国を譲る形を取らせ、全く韓国を日本の一部とし、天皇崇拜や日本語の強制ばかりか、創氏改名として名前さえ変えさせて民族の抹消を図りました。

戦後処理 第二次世界大戦後の日本側は韓国併合に関しては韓国併合二関スル条約の締結自体合法であったと考えている。これに対し第二次世界大戦後に大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国として成立した両政府とも、韓国併合二関スル条約は大日本帝国と大韓帝国の間で違法に結ばれた条約であるとして、同条約とそれに関連する条約すべてが当初から違法・無効であり、大日本帝国による朝鮮領有にさかのぼってその統治すべても違法・無効であるという立場を崩していない。

この点について、日本国と大韓民国の間で1965年の国交回復時に結ばれた日本国と大韓民国との間の基本関係に関する条約(日韓基本条約)では、その条文第二条において「千九百十年八月二十二日以前に大日本帝国と大韓帝国との間で締結されたすべての条約及び協定は、もはや無効であることが確認される。」とすることで合意に達した。しかし、両国で解釈が異なるなど、見解の相違が解決したわけではない(詳細は日本国と大韓民国との間の基本関係に関する条約に関する歴史認識の違いを参照)。日本国政府はこの条約についての「もはや無効である」という表現は日本側の立場をいささかも損なうものではないと表明している。(様々な議論があるのでWikipediaから引用してみました。「参照」もそのWikipedia参照という意味です)

この曖昧な玉虫色の決着がその後も交流は盛んになっても両国民の和解を妨げています。

武器輸出解禁への動き

政府の「新たな時代の安全保障と防衛力に関する懇談会」は8月27日将来の安全保障政策に関する報告書を菅直人首相に提出しました。集团的自衛権の行使を禁じる政府の憲法解釈の変更や、武器輸出三原則の緩和などを提唱。さらに将来的な非核三原則の見直しも求めており、これをもとに年内に新たな防衛計画大綱をまとめることになるだけにことは重大。経団連は武器輸出の禁止見直しを執拗に政府に求めており、それに呼応するように北沢防衛大臣は再三見直しに言及しています。

武器輸出禁止の三原則

①1967年の佐藤栄作首相の国会答弁(共産圏 国連決議で武器禁輸の国 国際紛争 当事国には武器輸出を認めない。

②1976年の三木武夫首相の国会答弁(佐藤首相の三原則にいくつかの項目が加えられた。三原則対象地域以外の地域については憲法及び外国為替法及び外国貿易管理法の精神の通り、「武器」の輸出を慎むものとする。武器製造関連設備の輸出については、「武器」に準じて取り扱うものとする。そして、武器輸出三原則における「武器」の定義を以下のようにした。軍隊が使用するものであって直接戦闘の用に供されるもの 本来的に、火器等を搭載し、そのもの自体が直接人の殺傷又は武力闘争の手段として物の破壊を目的として行動する護衛艦、戦闘機、戦車のようなもの。 そのご中曽根内閣で米軍向けを例外とするという解釈が付け加えられているが、とにかくこの原則は生きています。



妨害事件発生

8月9日に行われた「九条の会・流山」のおおたかの森駅前での活動の最中に、一人の若い男が、乱暴で執拗な妨害活動をしかけてきました。ハンドマイクでの訴えとビラ配布を行っていた私たちに対して、最初は肉声で大声を張り上げながら自由通路をうろつき回ったり、会員に対してからんだりしていましたが、途中からはハンドマイクを持ちだしてきて大音量で九条の会への攻撃、罵声や暴言を浴びせ続けたのです。

妨害者の「主張」の内容は「憲法はアメリカの押しつけだ」「九条の会の活動は命がけで、日本を守った英霊を侮辱する行為だ」「中国・朝鮮へは侵略はしていない、これらの国の近代化を助けた」「日本はアメリカやイギリスに侵略されたんだ」「中国こそ周辺民族に対して野蛮な侵略をやっている」「日本を批判するものは中国へ行け、北朝鮮へ帰れ」「お前らは馬鹿だ、非国民だ、非国民は早く死ぬ。さっさとこの場から去れ」等々というもので、典型的な右翼の主張でした。

私たちは、しばらくの間彼の主張はとんでもない間違いだと正したり、妨害への抗議を行ったりしながら宣伝を続けようとしてきました。しかし彼の傍若無人な振る舞いはやまず、ますますエスカレートするばかりでした。駅の乗り換え客や通行人が、一時何かと集まって遠巻きにするような事態にもなりました。私たちが平穩に憲法九条の意義を訴え、平和的に活動をしているところへの大音量と手こそ出さないものの顔を寄せて脅迫するような暴力的な介入、妨害でした。事情を解らない通行人に単なるいざこざに九条の会がかかわっていると誤解されたり、騒動に一般の人を巻き込むのも不本意なので、最後に抗議の主張を行った上で、予定より若干早く宣伝を終了しました。

この男は最近関西で在日韓国朝鮮人の特権を許すなどという攻撃を激しく行って活発に動いているある団体の一員と思われます。私たちは妨害に屈せず正々堂々と宣伝を続けます。

防災の日のもう一面

～ 忘れてならない関東大震災の人災 ～
1923.9.1関東大震災の恐怖と混乱のさなか、9月1日夜から、「朝鮮人が放火した」「井戸に毒を投げ込んだ」といったようなデマがとびかい、いくつかの警察が「朝鮮人來襲」に対する警戒をよびかけ、朝鮮人の拘束をはじめた。2日、海軍船橋送信所から無線で全国に「朝鮮人の暴動」が伝えられた。軍隊や警察、それに自警団がいたるところで「朝鮮人狩り」をおこなった。自警団は、警察などの指示を受けた地主や工場主、在郷軍人会、青年会、消防団が中心になって一晩のうちに3689カ所で組織されたともいわれ、日本刀や鳶口で武装し、一部は軍や警察から武器を貸しだされて、朝鮮人とみるや片っ端から虐殺していったといわれる。こうして犠牲になった朝鮮人は数千人に上るといふ。

日韓併合からたった13年。こうしたデマがやすやすと受け入れられたのは、やはり祖国を奪われた人々の恨みを考えればさもありなんと思わせたのかもしれない。このとき社会主義者たちもどさくさにまぎれて警察で殺された。亀戸事件である。左記の妨害事件のような排外的な動きも余りに荒唐無稽と思って軽視してはなるまい。いざというときにどんな形でそれが現れるかわからない。

定例駅頭宣伝

9月は9日(木) 15:30～16:30

流山おおたかの森駅

8月9日の左記の活動には14名が参加しました。ぜひ大勢の皆さんの参加をお願いします。

カンパはこちらの郵便振替口座へ

00130 - 5 - 464735 口座名 九条の会流山